

第1学年 算数科学習指導案

教科等	算数科	単元名	おおきいかず	本時	全14時間扱いの10時間目
学級	1年1組	授業者		教室等	1階 1年1組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 繰り返り上がりや繰り返り下がりがない2位数と1位数との加減計算の仕方を、数の構成に着目して考えることができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 学習問題を把握し、前時の学習内容との比較から学習課題を見いだす。【発見】 問題 $25 + 3$ T:前の時間の式との違いは何でしょう。 C:1の位が「0」じゃありません。 T:どのように計算したらよいでしょう。 C:「なん十といくつ」で計算できると思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $25 + 3$のけいさんのしかたを「なん十といくつ」をつかってかんがえよう。 </div>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前時の学習内容を確認し、数の構成に着目させる。34は$30 + 4$ 34 $30 + 4 = 34$  「なん十といくつ、でたしざんやひきざんのけいさんができる。」 □既習事項を壁面に掲示し、いつでもすぐに確認できるようにする。※視覚化</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○話題設定の工夫 前時に学習した問題との違いを考えて課題を設定し、既習内容をもとに「$25 + 3$の計算方法について」対話する。※焦点化</p> </div>
<p>2. 数の構成に着目して、$25 + 3$の計算の仕方を考える。【表現】 T: 計算の仕方を考えましょう。 ブロックや図で考える。(ばらの数をたす)式で考える。 $25 + 3 = 28$ (ばらの数をたす) </p> <p>3. 考えを発表し合い、解決する。【決定】 「なん十といくつ」をわけて、ばらの数を計算するとできる。</p> <p>4. 数の構成に着目して問題を作り、交流する。【対話】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①自分で式を考えて解く。 ②交流する。 ペア (隣・前後・斜めの人)</p> </div> <p>T:問題を考えて解きましょう。 T:もっとわかるようになるために交流しましょう。(学習内容に合った式か、正しく計算できているか、よいところやアドバイスをする。) C:私が考えた式は、$36 + 2$です。36を30と6に分けます。$6 + 2$は8 答えは、38です。</p>	<p>□自力解決の前に、解決の方法について席の近い人同士で短時間で話させる。</p> <p>□$25 + 3$の式の意味を確認し、数の構成に着目して、「25は20と5」と考えさせる。</p> <p>□算数ブロックや図、式、言葉等を用いて、ばらの数(一の位の数)を操作して答えを求めることに気付かせる。</p> <p>☆数の構成に着目して、$25 + 3$の計算の仕方を考えている。(観察・プリント)</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 ペアで本時に学習した内容を活用して問題をつくって解き方を交流し交流で何回も話すことによって、児童が「何十といくつ」をより定着できるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○話し合いの話し型の提示 話し合いの話し型「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えのいいところを伝えよう」を示す。</p> </div>
<p>5. 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>□自分の学習を振り返り、学習感想を発表し、学び合いのよさを実感させる。</p>

【板書計画】

おおきいかず $30 + 4 = 34$

なん十といくつ 34

めあて $25 + 3$ のけいさんのしかたを「なん十といくつ」をつかってかんがえよう。

もんだい $25 + 3$

かんがえかた $25 + 3 = 28$

なん十といくつにわける

まとめ $25 + 3 = 28$

「なん十といくつ」にわけてばらのかずにけいさんするとできる。

くじぶんのかんがえ> ブロックや図

ばらのかずを たす

ふりかえり

ばらのかずを たす

うんうん、たしかになるほど、そうだね

うけためよう。

ともたちのかんがえを

いいところをつたえよう。

わたしもしたいな。

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

前時の学習内容との比較から、既習事項をもとに「 $25 + 3$ を計算するためにはどうしたらよいのか。」ということを話題に設定する。前時の学習内容との「違い」から、本時のめあてを見いだすことで、既習事項を生かしながら児童の興味・関心を高め、自らすすんで、自分の考えを数や言葉で表現しようとしたり、友達に伝えたりしようとする姿につなげる。

話し合いのめあて話し型の提示

考えを交流する際は、「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えのいいところを伝えよう」の話し型を提示し、前向きな交流活動を促す。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

本学級の算数の時間では、本時のめあてについて本時で扱う問題を練り上げる対話の場面と、対話的に演習に取り組む時間を設定している。今回の対話の場面では、本時で学習した内容を活用して問題をつくって解き方をペアで交流する活動を設定する。交流で本時の学習した内容の問題を考えられているか認め合うことや、何回も話すことによって「何十といくつ」をより定着することができるようにする。